

復活節第7主日礼拝

2023年5月21日（日）

題 「招かれ従う人生」

テキスト：ヨハネによる福音書21章15～23節

皆さま、おはようございます。

先週は「母の日」を迎え皆さまと共に礼拝を捧げることができましたことを感謝します。このところ、例年に比べて気温が異常に高いように思います。地球の温暖化現象も大きいのだと思います。わたしたち人類はいつになったら未来に向かって学ぶことができるのだろうかと思わされます。最近新聞で紹介されている言葉で「こどもは学校が仕事、おとなは仕事は学校」とあり心を打ちました。子どもも大人も学んで行かなければならないのだと思われました。SDGs（持続可能な開発目標）と言われますが、企業や各自が欲望に支配されるような生活を改めなければ、気候変動・食糧問題などで、やがて世界に不幸をもたらすことはもうかなり前から警告されています。

さて、この世を生きておられた時、イエスは弟子たちと良く食事をされました。また時には野原で多くの人たちとも食事をされました。振り返ると、イエスの神さまの愛を伝える働きは、共に食するということと深く関わっているように思います。

教会でもコロナ禍前までは、聖餐式や愛餐の時を、ことあるごとに持っていました。教会にとって共に食事をするということは、イエスにある交わりを深める、交わりの関係の質を深めて行く、愛の養いの学びの時でもあると思います。

ところで、今日の聖書の個所には、復活されたイエスがガリラヤ湖畔で弟子たちのために自ら食事の用意をしてくださったことが記されています。弟子たちは、そのイエスと共に食事をするなかで、イエスと過ごした昔を思い出し、今またよみがえられたイエスと共にいるという確信を強められたのです。さて今日の聖書の個所はイエスと弟子のペトロについて記していますが、聖書によれば、

15:食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われたのです。ペトロは12弟子のリーダー格の人物です。弟子の中でも最初にガリラヤ湖畔で、イエスに招かれてイエスについて行きました。イエスに従ったのです。そのペトロに復活されたイ

イエスは、三度にわたって今日の聖書にあるように確認をされたのです。

16:二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。

一度目はイエスを愛していると言ったペトロに向かって、イエスは「わたしの小羊を飼いなさい。」と言われました。また二度目には「わたしの羊の世話をしなさい。」と言われました。羊も子羊も違いはないと思われます。

ただ様々な羊がいるということでしょうか。牧師も信徒にもいろんな人がいるのです。イエスは、今自分の前にいるペトロに対して、将来の働きを託されているのだと思います。イエスのそばに来た、神さまの招かれた羊である人たちを、思い、愛し、大切に生きて行くようにと。

ペトロは、イエスにそれを果たして行く決意を示しているようにも思えます。

さて、このペトロに対して、イエスは三度目に問われたのです。

17:三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」と。ペトロは、イエスが三度目も、「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。この時、ペトロはイエスに「わたしを愛しているか」と。ペトロはイエスから三度問われて、悲しくなったのです。数字の三は、聖書では「極み」という意味もあります。ペトロはイエスから心の極みまで、とことん問われたということです。ここでの「悲しくなる」には、戸惑う、困惑するとの意味もあるようです。

「イエスを愛している」というペトロに三度もイエスが問われて、ペトロは思い出したのです。

かつてはイエスにどんなことがあっても従う決意を持っていたペトロでしたが、イエスがユダヤの権力者たちに捕らわれた時には、ペトロは三度「わたしはイエスを知らない。」と言ったのです。

イエスに従うとのペトロの決意はどのようなものであったのでしょうか。そういうわたしも、わたしたちも皆、程度の差はあっても似たり寄ったりなのです。みな弱いのです。問題は己の弱さを知っているかどうかだと思います。ルカによる福音書 22 章 31 節 (p.154) 以下によれば、イエスがユダヤ教の指導者たちに捕られる前、イエスは自分を知らないというペトロの心を見抜いておられて、ペトロのために信仰がなくならないようにと神に祈っておられたのです。そして、ペトロには「あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてや

りなさい。」と語られたことがあったのです。

今日の場面では、この時、イエスはペトロに、18:はっきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」と話されました。これは「19:ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。」と記されています。このように話してから、ペトロに、「わたしに従いなさい」と言われたのです。

また「あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」との言葉は、やがてペトロがイエスと同じように殉教者として十字架につく日が来るということだとも理解されますが、そして事実そのような伝説も確かに後に生まれたのですが、今日、イエスに従う道は、殉教の道、十字架につく以外にもあるのではないのでしょうか。

超高齢化時代を迎えた今日、キリスト者もそうでない人たちも、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれるということもあるのではないかと思わされます。すぐ思うのは願わくは行きたくない病院であったり、できれば過ごしたくない福祉施設などなどです。また場合によっては、教会や地域でも奉仕にもそういうことがあるのかもしれませんが。そんな時は小さなでも大切な十字架体験をしているのかもしれませんが。イエスの苦しみと与る事、それはまたイエスと共にいる喜びに、神さまの恵みに与る時でもあるということ祈りつつ覚えておきたいと願うのです。大切なのは、どういう死を迎えるかではなく、どんな場合でも、どこにいても共にいてくださるイエスさまを忘れない、ということ、ペトロやわたしたちより先に、イエスは「わたしはあなたと共にいる。」と言ってくださったのです。イエスさまを覚えて生きるということだと思ふのです。それが神の栄光を表す道でもあるのだと思います。

そして20:ペトロが振り向くと、イエスの愛しておられた弟子がついて来るのが見えたのです。この人はヨハネ福音書をまとめた弟子のヨハネです。このヨハネは、あの最後の晩餐の時、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、裏切るのはだれですか」と言った人でした。

ペトロはヨハネを見て、「主よ、この人はどうなるのでしょうか」と言ったのです。ペトロもわたしたちと同じ人間でした。ペトロは評判の良かった弟子ヨハネのことが気になっていたのです。またヨハネもペトロのことが気になっていたのだと思います。

弟子たちのリーダーであるペトロも初めから完璧な信仰者ではなく、弱さを持った信仰者だったのです。しかし、弱さあるがままで、主なるイエスにすがり、信頼して、慕って生きて行ったのだと思います。

そのペトロを神は主イエスは温かく認めてくださっていたのだと思います。

22:イエスは言われた。「わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか。あなたは、わたしに従いなさい。」それが神とイエスに招かれた、わたしたち信仰者の神の栄光を現す道となって行くのだと思います。

ここに集っている私たちも、それぞれにイエスに招かれた者たちです。

これからも、イエスに招かれイエスについて行く従う道を希望を持って生きて行きたいと願います。

皆様の上に主の平安をお祈りいたします。 共に黙想しましょう。